

社会学部報

◇学部講演会および研究会

- 1991年4月24日（講演会）
講師 Michael Gurevitch 氏
（メリーランド大学教授）
「衛星放送によるニュース伝達の問題」
通訳 眞鍋 一史教授
- 1991年4月24日（研究会特別例会）
講師 Michael Gurevitch 氏
（メリーランド大学教授）
「政治的コミュニケーション研究の動向」
通訳 眞鍋 一史教授
- 1991年6月20日（研究会特別例会）
講師 GAYL D. NESS 氏
（ミシガン大学教授）
「POPULATION ENVIRONMENT
DYNAMICS」
通訳 谷川 賀苗 AUICK 研究員
- 1991年6月26日（研究会例会）
講師 石川 明 氏
社会学部教授
「放送制度の比較研究」

◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1991年7月17日
講師 B. J. メイナード 女史
（南メソジスト大学教授・社会学部交換教授）
「アメリカに於ける女性差別」

◇海外出張

- 鳥越 皓之 教授
1991年3月28日から4月6日まで
「社会学実習実施」のため韓国へ
- 對馬 路人 教授
1991年4月25日から5月5日まで
「韓国の親族会調査」のため韓国へ
- 倉田 和四生 教授
1991年7月7日から7月12日まで
「日本都市社会学会に出席」のため香港へ

- 山路 勝彦 教授
1991年7月8日から7月14日まで
「Japanese Studies Association of Australia 学会出席」のためオーストラリアへ
1991年7月15日から10月13日まで
「文部省海外学術調査研究」のためパプア
ニューギニアへ
- 高坂 健次 教授
1991年7月10日から7月16日まで
「オーストラリア日本研究学会全国会議シン
ポジウム出席」のためオーストラリアへ
- 中西 良夫 教授
1991年7月22日から8月5日まで
「KOSETA（韓国中等学校英語教育協議会）
ワークショップの参加及び AETK（韓国英
語教育協議会）訪問」のため韓国へ
- 船本 弘毅 教授
1991年7月27日から8月11日まで
「中学部インド親善訪問旅行の顧問」として
インドへ
1991年9月6日から9月13日まで
「台湾基督長老教会・雙連教会において講演
等」のため台湾へ
- 宮原 浩二郎 助教授
1991年8月22日から9月22日まで
「ISA 主催ホームスティ・プログラムに引率
指導者として同行」のためアメリカへ
- 遠藤 惣一 教授
1991年8月21日から8月29日まで
「中国社会科学院と関西社会学会の交流」の
ため中国へ
- 川久保 美智子 専任講師
1991年8月21日から8月29日まで
「中国社会科学院と関西社会学会の交流」の
ため中国へ
- 森川 甫 教授
1991年9月1日から9月10日まで
「フランス管区年次報告書について共同研究」
のためフランスへ
1991年9月30日から10月4日まで
「アジア・カルヴァン学会で研究発表」のた
め台湾へ

- 荻野 昌弘 専任講師
1991年9月25日から10月8日まで
「日仏シンポジウムで研究報告」のためフランスへ
- 中野 秀一郎 教授
1991年9月30日から10月13日まで
「日仏シンポジウムで研究発表」のためフランスへ
- 荒川 義子 教授
(著書)「スーパービジョンの実際」1991. 5
川島書店
- 正村 俊之 助教授
(分担執筆)「社会学の理論でとく現代のしくみ」1991. 5 新曜社
- 立木 茂雄 助教授
(編著)「カウンセリングの成功と失敗」1991. 4 創元社

◇会員の新著書

- 遠藤 惣一 教授
(共著)「現代を生きる社会学」 1991. 4
ミネルヴァ書房
- 森川 甫 教授
(分担執筆)「Pascal Port - Royal Orient Occident」1991. Paris Klincksieek
(分担執筆)「Sengari (パスカル『パンセ』セミナー)」1990. 3. 20 タカラ写真
- 中野 秀一郎 教授
(共著)「都市化・国際化と保健医療の課題」1991. 4 垣内出版
(共著)「Proceedings of the ACUCA Workshop of The Responsibility of Christian Universities Towards Community Development」1991. Fresan Printing
- 津金澤 聰廣 教授
(著書)「宝塚戦略」 1991. 4 講談社
- 津金澤 聰廣 教授 (編著) 對馬 路人 助教授 (分担執筆)
「大衆文化事典」1991. 2 弘文堂
- 西山 美瑛子 教授
(分担執筆)「グローバリゼーション—日本企業の挑戦—」1991. 3 清文社
- 眞鍋 一史 教授
(共著)「Rethinking JAPAN」1990. Japan Library Ltd
(分担執筆)「兵庫県民の水使用に関する調査—報告書—」1991. 3 兵庫県企画部
- 山路 勝彦 教授
(編著)「Kinship, Gender and The Cosmic World」1991. 1 南天書局
- 川久保 美智子 専任講師
(著書)「日米社員の意識比較」1991. 3 講談社出版サービスセンター

学 会 消 息

◇ブレーズ・パスカル学会

1990年9月20日から23日まで、クレルモン・フェラン大学で開催された《パスカルをめぐる法と政治思想》の研究集会（ブレーズ・パスカル国際研究所、ポール・ロワイヤル学会共催）に本学からは森川 甫教授が参加し、第5部門〈神学と哲学〉の司会をつとめた。

◇数理社会学会

・1990年11月5日、第10回数理社会学会大会が甲南大学において開催された。本学部からは、高坂健次教授が「数理社会学、いま必要なこと」と題して会長講演を行うとともに、「階層構造の分布イメージに関するモデル」について一般報告を行った。

・1991年3月30日、31日北海道大学において、第11回数理社会学会大会が開催された。本学からは高坂健次教授が、「政党支持の安定性について——マルコフ・モデルによる一試論」および「階級・階層論の問の構造——フォーマルな枠組みの提示」と題して、二つの報告を行った。

◇「文化と人間」の会研究会

「文化と人間」の会主催の第4回研究会が「地球社会時代と人間科学の課題」と題する特別ワークショップの形式で実施された。このワークショップは第31回日本社会心理学会大会（関西学院大学）において行われた「地球社会時代と社会心理学」と題するワークショップの第2ラウンドともいふべきものであるが、詳細は以下のとおりであった。

日 時：1991年3月28日午後1時～5時

場 所：慶応義塾大学（三田キャンパス）新研究室棟1階会議室A・B・C

討論者：秋山剛（東京大学病院：精神医学）、井下理（慶応義塾大学総合政策学部：社会心理学、異文化間教育）、大淵憲一（東北大学文学部：社会心理学）、高橋順一（桜美林大学国際学部：文化人類学）、津田幸

男（名古屋大学総合言語センター：言語学）、真鍋一史（関西学院大学社会学部：政治・社会心理学）、御堂岡潔（東京女子大学現代文化学部：社会心理学）、南隆男（慶応義塾大学文学部：社会心理学）、山岸俊男（北海道大学文学部：社会心理学）、渡辺文夫（奥羽大学歯学部：社会心理学）

司 会：渡辺文夫、高橋順一

◇関西社会学会

関西社会学会第42回大会が1991年5月25日（土）と26日（日）の両日、神戸大学において開催された。

本学からは真鍋一史教授が「民族・国家」の部門で「広告による外国イメージの形成——ステレオタイプの増幅作用を中心に——」と題する研究発表を行った。

また、高坂健次教授が「民衆意識の分析——その課題と方法」というテーマで元濱涼一郎氏と共同報告した。

◇異文化間教育学会

異文化間教育学会第12回大会が、1991年5月25日（土）、26日（日）の両日、神戸大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が「異文化接触の視点から見た広告」というテーマで研究発表を行った。

◇日本新聞学会

日本新聞学会の1991年度春季研究発表会が1991年6月1日（土）、2日（日）の両日、立命館大学において開催された。

本学からは津金澤聰廣教授が、第2日のワークショップ「日本のジャーナリズムにおける西と東」において司会を担当し、真鍋一史教授が第1日の研究発表で「国際コミュニケーションの視点からの国際広告の現状と課題——ドイツと日本における外国関連広告の内容分析——」と題する共同研究（ドイツ日本研究所研究生マルク・レー、川西市都市問題研究員高野奈美子）の成果を報告するとともに、第2日のワークショップ「世論調査とマス・メディア」にお

いて問題提起を行った。

◇日本フランス語：フランス文学会

1991年6月9日、東京大学で開催された日本フランス語・フランス文学会研究発表大会において、本学部森川 甫教授は *Annuae Litterae Prouinciaie Franciae ad annum Christi 1656* (「1656年度フランス管区年次報告書」) とパスカルの *Les Lettres Provinciales* 『プロヴァンシアルの手紙』と題して研究発表した。

◇日本地域福祉学会

日本地域福祉学会第5回大会は6月15日、16日、日本福祉大学で開催された。大会テーマは「街づくりと“まち”づくり——地域福祉固有の視点を求めて——」であり、本学教授高田真治と大学院学生土田美世子・全光鉉が参加した。土田は「地域での子育てについての一考察——平野児童館『はとぼっぼ教室』修了者に対するアンケート調査を通して——」(共同研究)を報告した。

◇情報通信学会

情報通信学会第8回大会が1991年6月21日(金)、22日(土)の両日、関西大学において開催された。

本学からは津金澤聰廣教授が第2日のワークショップ「表現の自由と電気通信——ダイアルQ2の法律的課題——」で指定討論者の役割を果たし、真鍋一史教授が第1日の個人研究発表で、「国際情報としての広告——海外において日本の国際広告はどう見られているか——」と題する報告を行った。

◇日本社会学史学会

平成3年度日本社会学史学会大会が6月22日(土)、23日(日)の両日、いわき明星大学において開催された。本学からは荻野昌弘専任講師がシンポジウム「フランス社会学の現状と展望——ブルデューとブードンを中心に——」において「ブルデューと現代フランス社会学」というテーマで報告を行った。

◇Japanese Studies Association of Australia

1991年7月11日から13日まで、第7回全国会議がキャンベラで開催され、本学部からは、山路勝彦教授と高坂健次教授が参加し、研究発表を行った。

山路教授は「The Japanese concept of the savage, and anthropology in Japan」について、高坂教授は「Changing Class Perceptions in Contemporary Japan」について報告した。

◇International Congress of the International Institute of Sociology

第30回国際社会学機構世界会議が、1991年8月5日(月)から9日(金)までの5日間、神戸国際会議場において開催された。

今回は、Ecology, World Resources and the Quality of Social Life を中心的テーマに設定し、35のSessionが開かれた。

本学からは真鍋一史教授がSession 9 General Social Attitudes: International Perspectives において米国スタンフォード大学 H. Befu 教授との共同研究の成果を An Empirical Investigation of *Nihonjinron* と題して発表するとともにそれをめぐる討論を展開した。

執筆者紹介 (掲載順)

| | | | |
|----------------|----------------------------|---------|-------------------------------------|
| David R. Heise | インディアナ大学教授 | 芝野松次郎 | 関西学院大学助教授 |
| 小関藤一郎 | 関西学院大学名誉教授 | 正木直道 | 米国ニュージャージー州 ミズーリ・ルーテル派牧師 |
| 倉田和四生 | 関西学院大学教授 | 立木茂雄 | 関西学院大学助教授 |
| 山本剛郎 | 関西学院大学教授 | 渡辺顕一郎 | 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程 |
| 荻野昌弘 | 関西学院大学専任講師 | 真鍋一史 | 関西学院大学教授 |
| 足高壹夫 | 関西学院大学大学院 社会学研究科研究員 | マルク・レール | ドイツ日本研究所研究生 東京大学新聞研究所研究生 |
| 遠藤惣一 | 関西学院大学教授 | 高野奈美子 | 川西市都市問題分析調査研究員 関西学院大学大学院社会学研究科聴生 |
| 牧正英 | 関西学院大学教授 | 芝田正夫 | 関西学院大学助教授 |
| 西山美瑛子 | 関西学院大学教授 | 中野秀一郎 | 関西学院大学教授 |
| 川久保美智子 | 関西学院大学専任講師 | 謝小彬 | 関西学院大学大学院社会学 研究科博士課程後期課程 |
| 桑田繁 | 大阪市立大学大学院 文学研究科博士課程後期課程 | 高田真治 | 関西学院大学教授 |

社会学部研究会会員

| | | | | | |
|------|-------------|----------|--------|--|--|
| 会 長 | 佐々木 薫 | | | | |
| 運営委員 | 中野秀一郎 | 春名純人 | 西山美瑛子 | | |
| | 鳥越皓之 | 正村俊之雄 | 立木茂雄 | | |
| 会計監査 | 中山慶一郎 | 宮田満雄 | | | |
| 書記 | 岡部衛一郎 | | | | |
| 名誉会員 | 青山秀夫 | 本出祐之 | 小関藤一郎 | | |
| | 萬成博 | 西尾朗 | 岡村重夫 | | |
| | 領家穰 | 嶋田津矢子 | 定平元四良 | | |
| | 杉原方 | 清水盛光 | 栃原知雄 | | |
| | (A B C 順) | | | | |
| 普通会员 | 田中国夫 | 倉田和四生 | 杉山貞夫 | | |
| | 半田一吉 | 武田建 | 牧正英 | | |
| | 遠藤惣一 | 森川甫 | 張光夫 | | |
| | J.A. ジョイス | 船本弘毅 | 津金澤聰廣 | | |
| | 紺田千登史 | 村川満 | 真鍋一史 | | |
| | 山路勝彦 | 山本剛郎 | 高田真治 | | |
| | 荒川義子 | 安藤文四郎 | 浅野仁 | | |
| | 高坂健次 | 中西良夫 | 石川明 | | |
| | 對馬路人 | 芝田正夫 | 芝野松次郎 | | |
| | 宮原浩二郎 | A. ブレイディ | 川久保美智子 | | |
| | 荻野昌弘 | | | | |

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究會委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第 8 条

總會は定期總會と臨時總會とし、會長が主宰する。定期總會は毎年一回開催され、臨時總會は會長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

總會の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章 会 計

第 10 条

本會の會計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本會の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通會員年額 19,200円
賛助會員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本會員および本學社会学部大学院學生・学部學生は機関誌の配布を受ける。學生の購読費は年間1,600円とする。

付 則

第 1 条

本會の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本會の會則変更および本會の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、總會において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本會則は1989年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1989年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
 - ①原著
 - ②研究ノート
 - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
 - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
 - ⑤その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
 - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
 - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
 - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版(トレース、写植代)は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
 - ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された本紀要は名誉会員、普通会员及び学生に配布する。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

「社会学部紀要」第64号をお届けします。第63号（社会学部創設30周年記念論文集）の大冊出版のあとにも拘らず、多くの論文（研究ノートを含む）を寄稿して下さった方々に感謝いたします。

研究会運営委員会では、紀要について、研究会の開催方法について色々と話題が尽きません。研究会については、外国の研究者による特別例会が続いて、会員の研究例会がおざなりになっているのではないかという意見があり、今年度は6月に石川明先生から「放送制度の比較研究」という発表を聞くことができ、良い勉強になった。10月はA・ブレイディー先生から〈Listening Strategies and Skills Teaching in the EFL Classroom〉という発表を聞くことになっている。あと11月にもう一度開催して研究例会を軌道にのせたいと願っている。紀要については発表論文の合評会のようなものを開催できたらという案やそれと研究会を連動させてはという意見もある。いずれにしても、紀要や研究会例会によって研究意欲が刺激され、研究会員の相互理解が促進され学問を媒介にした連帯感が高揚されることを期待している。

学生への〈環元〉の問題に関しては、紀要に優秀な卒業論文（安田賞受賞）を掲載する道が開かれたのは結構なことである。なお、研究員にも大学院生と同じく年会費を納入して頂くかわりに紀要を差上げることにした。

最後に、編集事務でご苦勞をおかけしました社会学部事務室の山下英世主任と染谷迪子さんをはじめ事務室の皆様へ厚く御礼申し上げます。（春名）

1991年11月10日 印刷

1991年11月20日 発行

編集発行人 佐々木 薫

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(53)6111(代表)

(内線)4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN
SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 64

November 1991

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
